

あいづわかまつ 【第2号】 庁舎整備ニュース

2021(令和3年)5月1日
会津若松市役所
庁舎整備室

情報や防災、市民サービスの拠点、そして市民生活を支える 新庁舎の基本設計が完了しました



【北東側から見た、本庁舎旧館の外壁デザインと連続させた外観イメージ】

「庁舎整備基本計画」等に基づき、設計・旧館の保存方針や配置計画、外構駐車場計画、景観計画、構造計画などの庁舎整備に向けた条件整理を行い、また、市民の皆さんからいただいたご意見、提案を踏まえて、基本設計が完了しました。

今後は、この基本設計をもとに、実施設計を進めていきます。

庁舎計画概要

所在地：会津若松市東栄町地内
敷地面積：約 6,277 m²
構造：鉄筋コンクリート造
一部鉄骨造
階数：地上7階建
最高高さ：約 30 m
建築面積：約 3,176 m²
延べ面積：約 13,722 m²
駐車台数：20 台(敷地内)
100 台(謹教小学校跡地)

基本設計を構成する3つのコンセプト

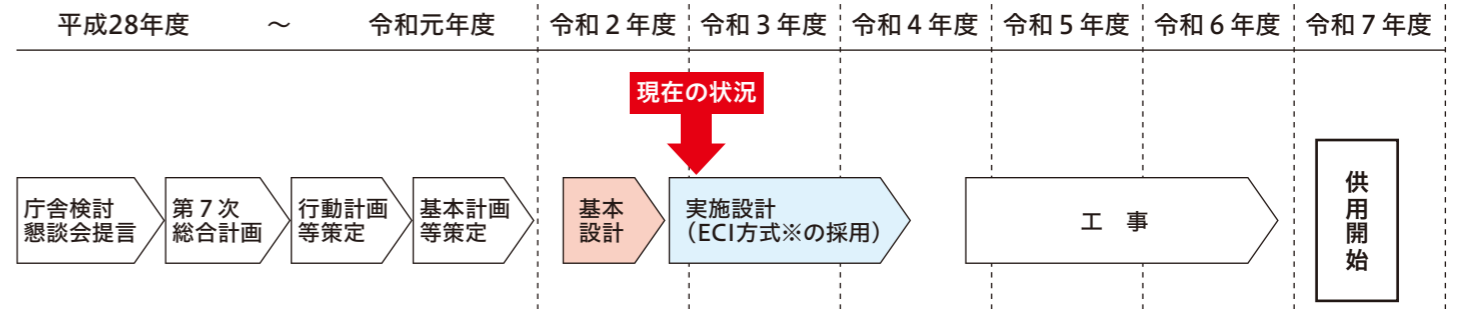
1. 城下町会津若松の「人」「歴史」「情報」「安心」を「4つの広場」でつなぐ『みんなの庁舎』
2. 本庁舎旧館の歴史的価値を保存・再生
3. 市の「これから」を見据えた庁舎

次ページ以降で、各コンセプトに基づいた、基本設計の内容等についてお伝えします。

なお、基本設計に基づいた「新庁舎3Dイメージ映像」も作成しました。右のQRコード(市の公式YouTubeチャンネル)からご覧いただけます。



庁舎整備事業の流れ



※「ECI方式」とは、設計段階から施工(予定)者が事業に参加し、その技術力を設計内容に反映していく方式です。「建築物の品質向上」や「適正なコスト管理」、「円滑な事業の推進」などの観点から、本市工事の中では、庁舎整備事業において初めて採用します。なお、ECI方式は、下の「新庁舎建築工事」に採用します。

概算事業費(基本設計時点)

庁舎整備費の内訳		実質的な市の負担について
1 工事関連費合計	83.6億円	庁舎整備基金や市債借入に対する国からの交付税措置により実質的な負担額はゼロとなる見込みです。
内 庁舎建築工事	79億円	
内 解体工事	1.5億円	
内 駐車場整備工事	3.1億円	
2 その他の費用	19.4億円	庁舎整備基金を充当し、負担額を低減します。
全体事業費(1+2)	103億円	全体事業費に対する実質的な負担は約16億円と想定されます。

※全体事業費103億円は、これまで市政だよりでお知らせしてきた事業費と同額です。
※その他の費用は、設計・調査費、道路整備費、引越費用などです。

庁舎建設工事について

庁舎建設工事は、以下の5つの工種別の工事を予定しています。

1. 「新庁舎建築工事(昇降機・外構含む)」、「本庁舎旧館保存及び改修工事」及び本庁舎旧館一部解体工事
2. 電気設備工事
3. 情報設備工事
4. 給排水衛生設備工事
5. 空気調和設備工事

※1以外の工事は、実施設計終了後に発注予定です。

※また、その他の関連工事も予定しています。

庁舎整備に関する「オープンハウス」を開催します。(予定)

開催日：令和3年5月29日(土)、5月30日(日)
場所：生涯学習センター 1階・市民ギャラリー
時間：各日 10時から17時まで
内容：・高校生や市民の皆さんと一緒に検討した(仮称)あいづっこプラザの活用案等の展示
・新庁舎3Dイメージ映像の放映 など



城下町会津まちづくり寄附金(ふるさと納税)のご案内

「市役所本庁舎旧館の保存・活用ために」のコースを設けています。市民の皆様のシンボルである本庁舎旧館を次の世代へ引き継いでいくため、ご支援をお願いします。

詳細は、市ホームページの「ふるさと納税」のページ、もしくは、右のQRコードを読み取りご確認ください。



ご提案をお寄せください。【期間：5月1日から5月31日まで】

庁舎整備ニュースでご紹介した基本設計の内容等を踏まえ、実施設計の中で検討して欲しいことなどについて、市民の皆さんの提案を募集します。今後の設計の中で参考にさせていただきます。

提案は、右のQRコードを読み取り、指定のフォームより提出してください。



※QRコードは(株)デンソーウエーブの登録商標です

会津若松市庁舎整備事業 基本設計の概要

城下町会津若松の「人」「歴史」「情報」「安心」を「4つの広場」*でつなく『みんなの庁舎』

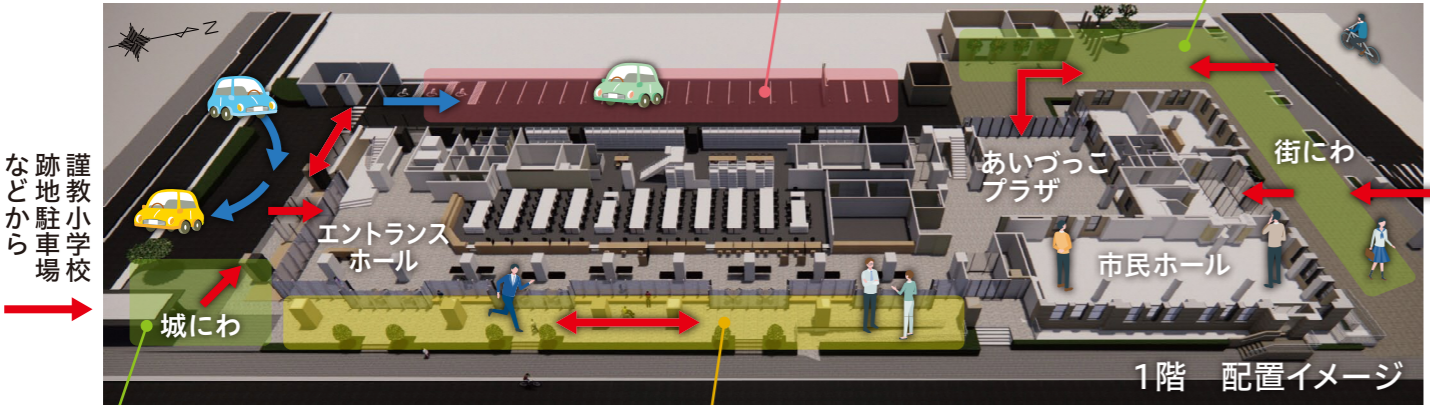
(※広場は、「街にわ」・「あいっこプラザ」・「縁側プロムナード」・「城にわ」の4つを想定しています。なお、各名称は仮称です。)

配置計画の主なポイント

- 歩行者動線
- 車両動線

思いやり・優先駐車スペース
からだの不自由な方を優先とした駐車スペースとします。

街にわ
保存する旧館の外観を際立たせる前庭として、ゆとりある空間とします。



城にわ
鶴ヶ城側からの新たな顔として、利用する方を温かく迎えるゾーンとします。

縁側プロムナード
鶴ヶ城と駅をつなぐ歩行空間として、市民の方々や観光客の皆さんが気軽に憩える空間とします。

敷地東側と南側の道路を広げ、歩行者・車両の通行に配慮します。

駐車場計画の主なポイント

来庁者メイン駐車場
謹教小学校跡地に、平置き100台分の駐車場(融雪対応)を整備します。あわせて、周辺の民間駐車場の利用も検討していきます。

20台分の思いやり・優先駐車スペースを整備します。

庁舎敷地内の歩行者通路や駐車スペースは、冬季間の積雪や凍結へ対応した融雪を行います。

駐車場から庁舎までは、雁木通路を設け、快適な歩行と修景につなげます。

駐輪場・バイク置場
歩行者通路沿いに整備します。
※駐輪場は、庁舎敷地内にも設けます。

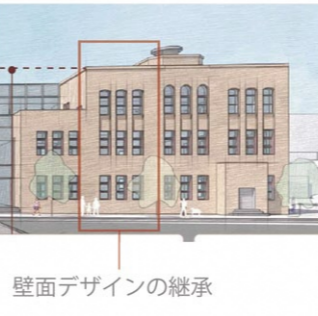


【旧館と新庁舎をつなぐ「(仮称)あいっこプラザ」のイメージ】

本庁舎旧館の歴史的価値を保存・再生

保存計画の主なポイント

- 本市のシンボルである旧館の外観デザインを可能な限り創建当時の様子で継承します。
- 内部の階段、市長室、議場のデザインを残します。
- 耐震性、耐久性を確保するため、免震工法を採用します。

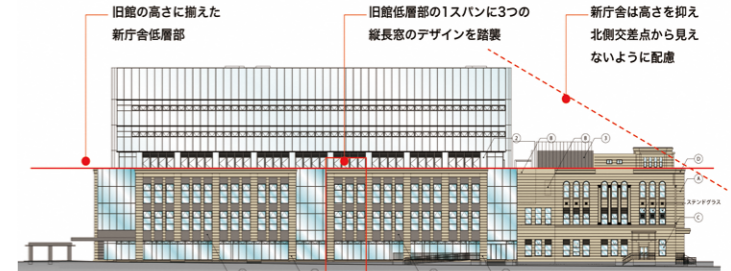


景観計画の主なポイント

- 旧館のデザイン要素である、「1スパンに3つの縦長窓」を特徴とした外壁デザインを、新庁舎の低層部(1~3階)にとり入れます。
- 新庁舎の高層部は、低層部のデザインを際立たせ、空とのつながりを重視したデザインとします。

新庁舎		旧館	
6F 総務、財務部門			
5F 産業振興部門			
4F 企画、市民生活部門			
3F 税・教育窓口ゾーン			議場
2F 福祉窓口ゾーン		あいっこプラザ	議会関連
1F ライフイベント・福祉窓口ゾーン			市民ホール

〈各フロアの主な構成イメージ〉



〈東側立面図〉

平面計画の主なポイント

- 1階のエントランスホールには、総合受付を設置し、また、主に1、2階に窓口機能を集約することで、来庁される方の利便性を高めます。
- 旧庁舎と新庁舎の接続部に「(仮称)あいっこプラザ」を設け、庁舎全体の情報発信拠点、市民の活動の場とします。



【窓口や執務室イメージ】

市の「これから」を見据えた庁舎

防災計画の主なポイント

- 地震があっても業務が継続できる免震構造とします。
- 災害時には、災害対策本部を新庁舎に設置できるレイアウトとします。
- 停電時には3日間連続運転が可能な自家発電機を設置するなど、インフラが途絶えることがないように、災害対策の拠点として備えます。

ユニバーサルデザイン計画の主なポイント

- 誰もが「安全で快適に」利用しやすい庁舎とします。
- 建物内にキッズスペースや授乳室、多機能トイレなどを設置します。
- 案内等のサインは、ピクトサイン、多言語表記を用いるなど、すべての人にわかりやすい表記とします。



環境配慮計画の主なポイント

- 自然エネルギーの活用と高効率な設備システムを採用し、消費エネルギーや二酸化炭素発生の低減を図ります。